

◎大英博物館所蔵：日本の園芸文化史

# 『草木奇品家雅見』

写真提供/田口 源夫

## Japanese Book Illustration

YU-YING BROWN



The British Library

# 『草木奇品家雅見』

田口 源夫

別掲の写真は文政十年（一八二七年）発行、『草木奇品家雅見』中巻の巻頭に掲載のもので、三部からなるこの本は、世界の園芸史においても珍しい、日本独特の斑入り植物園芸の集大成です。選著者は、園芸家に多数の交遊を持つ青山の種樹家、繁亭こと金太で、さらに旗本水野忠暁の協力で上梓したものです。

当時、葉変わりの珍種奇品を収集している園芸愛好家を尋ね歩き、選定した珍奇名品を、大岡雲峰、石川碩峯、関根雲停など、著名な絵師に写生させて、それぞれの培養家、九〇余名の略歴も添えてあります。その二年後に出版された水野忠暁著の『草木錦葉集』とともに、斑入り園芸の歴史をもの語る貴重な資料とされています。

この本でまず驚くことは、斑入り

植物の種類之多さと、珍品奇品の数々です。この本に掲載された品種が、その後の戦災などで絶種して、現在に伝わっていないのは残念に思いますが、当時の園芸界の盛況をかいま見る思いで、先人たちの斑入り植物収集の熱意に驚嘆します。斑入り植物は、日本人独特の繊細な美意識から集められたもので、一朝一夕にして集まる品ではなく、また、突然流行したわけでもありません。されば、どのような背景で生まれたのでしょうか。

江戸時代、安定した社会情政のもと、民間資本が蓄積されて、豊かさとともに遊芸が流行し、園芸においても、さらに美しい物への欲求が高揚しました。くわえて、当時、飛躍的に進歩した植物学との相乗効果によって、園芸はますます隆盛を極め、

の書籍が出版されました。前記の斑入り書も、これらの一部ですが、残念ながら、当時の本は日本では散逸して、保存されていない物が多いのが現実です

しかし、大英国立図書館には後世のために、良好な状態で保存されており、イギリスの文化へ取り組む姿勢に敬服と驚きを覚えました。

大英図書館の東洋部門蔵書目録の一部を別掲しましたが、日本の江戸時代の貴重な本がズラリと並んでいる

当時、外国の人々の興味を引いたのは、美しい彩色をほどこした日本の版画と、それに描かれた珍しい植物によって知った、高度な園芸文化であったと思われます。それゆえに特筆すべきは、江戸時代末期に、シーボルトなど一流の植物学者が来日して、日本の書物や植物を海外に紹介したことです。

これによって日本でさえ見ることのできない本がイギリスで保存されていたのです。その関連図書として、



文政十年（一八二七）発行『草木奇品家雅見』南天の図

筆者の『富貴蘭』（池田書店）も数ある類書の中から選ばれて、「The British Library」（大英国立図書館）に永久保存になりました。これによって日本文化の一端を海の彼方に紹介できたことは、筆者として望外の喜びとするところです。

また、大英図書館東洋写版本部主席研究員ブラウン女史は、日本文化に対する造詣が深く、『Japanese Book Illustration』（日本彩色本）、を上梓され、そのサイン入りの本をいただいたのですが、その本の巻頭に掲載された写真が前記の『草木奇品家雅見』です。

さすがに関根雲停画伯が手を染め

られただけに、彩色の美しさは圧巻といえます。

画面にある説明文は次の通りです。「小石川栗元出の南天は世に広く伝りて人毎に是を愛す。小万年青はあひの斑見事也。百両金は紫実の丸葉にして松平斑なり。この二品は未他に有事をきかず尤奇品なり」と書かれています。

しかし、『草木奇品家雅見』の原本は日本では四散して貴重本といわれてひさしいので、その存在を仄聞するのみです。東京の国立中央図書館の蔵書も、たしか写本で白黒の線描きです。もちろん筆者の手元にある本も写本ですから、原本の美しさは

想像以上のものでした。

このように、世界に誇る斑入り園芸文化を創設した先人たちの偉業は海外でも評価されていて、その書籍が今にいたるも保存されています。

ゆえに、私たち園芸愛好家は、富貴蘭など江戸時代の伝承希少植物を再認識して、大切に保存育成する必要を痛感します。

また、現代は海外の国々でも、公園などに彩りのために斑入り植物を植栽している時代です。将来、必ずや斑入り園芸文化が問いなおされるであろうと思います。

このような意味からも、私たち富貴蘭愛好家は「世界らん展日本大賞

### 大英図書館東洋部門目録の一部

- 草木鳥獸諸職繪手本 *Sōmoku chōjiu sho shōku ye tehon.* See 草木 SŌMOKU.
- 草木圖説目録 *Sōmoku dzusetsu mokuroku.* See 田中芳男 TANAKA YOSHIO, and 小野職愨 ONO MOTOYOSHI.
- 草木圖説前篇 *Sōmoku dzusetsu zempen.* See 飯沼愨齋 IINUMA YOKUSAI.
- 草木移植心得 *Sōmoku ishoku kokoroye.* See 田中芳男 TANAKA YOSHIO, and 武田昌次 TAKEDA SHŌJI.
- 草木奇品家雅見 *Sōmoku kihin kagami.* See 大岡雲峯 ŌOKA UMPŌ.
- 草木錦葉集 *Sōmoku Kinyōshiū.* See 水野 MIDZUNO
- 草木花鳥畫譜 *Sōmoku kuachō guafu.* See 芝新助 SHIBA SHINSUKE.
- 草木花寫真 *Sōmoku kua shashin.* See 草木 SŌMOKU.  
—See 草木花 SŌMOKU KWA.
- 草木性譜 *Sōmoku shōfu.* See 清原重臣 KIYOWARA NO SHIGEOMI.
- 草木育種 *Sōmoku sodutegusa.* See 阿部喜任 ABE YOSHITO.

’91」（東京ドームにおいてNHK・読売新聞社・世界らん展組織委員会共催、二月二三日（三月二日）に「富貴蘭・葉芸の世界」のタイトルで、ささやかな展示を行いました。ところが海外の人々の高い関心に私自身が驚いています。

いずれこの輪が広がり、園芸文化といえる東洋ランの葉芸を見学に、世界各地から多くの人々が日本を訪れる日を夢みています。それゆえに、芽が出た葉が出たと、その増殖を喜び、富貴蘭との新鮮な出会いを日々楽しんでいきます。



文政12年(1829)発行『草木錦葉集』